

水明インターネット句会（選句・選評） 令和五年一月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15							
	陽射しあり布団干したり得した気	日常を詠み込んだ無理のない自然な句だ。恙なく家族揃ってお正月を迎えられたこと幸せなことだとおもいます。さらりと新年を祝して良。 恙無く家族揃ひて去年今年	魔女にすすめられて飲むシャンペンに高くなりそうで面白い。華と魔の2面性が面白い。	摩天楼雪降りしきる魔女の街	手遊びの割り箸弓矢松明けぬ	大寒やもうここに居ぬ人の名を	秘書課の若い女性の晴れ着姿に期待する男心が良い。初髪の凛々しさ清さがとても爽やか。仕事始めの様子が良く出ている。	覗き見む初髪二人ゐる秘書課	一茶忌や新幹線のけたたまし	あめ玉をこりりと噛み砕く寒九	昔から幾多の母親がこの思いを。ウルウルとしました。帰省しない子への親心。お正月の親心がよく表れています。お正月の親心がよく表れています。お正月の親心がよく表れています。	帰省せぬ子の名も揃へ祝箸	真つ白な雪に赤い椿の色合いが鮮やか。初雪の白さと落椿の紅の対比が美しい。白い雪に赤い椿が少し沈んで落ちているさまが美しい。	初雪の浅き窪みや落椿	禪継ぎ毛布に倒る走者かな	石段と冬木立のつくるあみだくじ。面白い絵を発見しました。磴と磴に映つた木の影を、阿弥陀籤に擬人化しているのが良いですね。階段の木影をあみだくじと捉えた作者の感性が素晴らしい。「石段」が冬木影を立体的にしている。石段と木立の線があみだくじに見える着想が面白い。	石段の阿弥陀籤めく冬木影	霜日和朝日に光る瓦屋根	ほろにがき露の臺が若き日の実らなかつた恋をつないで切ない。	遠き日のほろ苦き恋露の臺	箱根駅伝の走者の状況が大変上手に表現されている。	襷手に倒るる走者三日かな
	清川徹斎	檜鼻ことは	古賀由美子	しんい	新井史子	森下山菜	池田珪子	ほのる	荒一葉	みづる	河野凡士	森美枝子	反町修	新暦文	かげろう							

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	水明インターネット句会（選句・選評） 令和五年一月
				のぞみ	美枝子 俳翁 鶴城 京子		山菜 荒一葉 水月 マスミ 京子	音思 由美子 荒一葉 喜夫 朝香 きいち みづる 稀香 俳翁		風子	静香				
初照れや愛してるよあなただけ	新雪を歩むがごとく未来へと	人待ちて正月の膳南向き	連敗の神経衰弱三が日	幻影の水龍昇る風邪の夜 高熱にうなされて見た幻影。	大吉といふ「やる気スイッチ」明けの春	初夢や笑まふ父母若かりし	社長兼杜氏はをみな寒造	若水や木の香ほのかに榎目杓 新年にあたり柄杓も新しいものに取り替えたのでしようね、木の香が香るようです。木の香のする榎目杓で飲めば長生きできること間違いなし。榎目杓が気に入りました。新年の若水が木の香りを伴って瑞々しい。元旦の清々しい淑気と水の冷たい感触が感じられる。新年の景と香りが清々しい。初茶会の新たまつた空気感を榎目杓で表現している。木の香る榎目の柄杓が新しき年の清々しさを表現されていて素晴らしいです。水も新たに柄杓に汲む水に木の香が応える清新さが読み取れます。元日の清新さがよく表現されている。	膝に來し犬の温みや冬の雨	宝くじ列に並んだ雪女 雪女もやはりお金が欲しいのか？雅と俗の虚構が見事。	二重跳びのチャレンジ続き春隣	一筋の雲初空を遊泳す 成功の兆しが見える明るさが良い。	シャンパンのグラスに満る初日の出	去年今年貫きLINE届きたり	
網野月を	後記朝香	霜里	本橋稀香	吉川水月	石関六弦	倉田詩子	染谷風子	後藤允孝	龍野ひろし	望月のぞみ	青木鶴城	秋谷風舎	光雲2	俳翁	

45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	水明インターネット句会（選句・選評） 令和五年一月
	寒立馬	風子	ひろし	ことは		修		月を 風子		しんい 稀香 朝香	ことは 水月 月を		暦文 みづる たか子	音思	
海青く瓦光りし初電車	百歳の母小さくて冬悲し 啄木の歌を思わせるが、この母は存命でありめでたいのでは。	ダイヤモンドダストに二人溶けてゆく 溶けてゆく2人の関係と成り行きを色々想像させる句。	おばちゃんはレジのベテラン年の暮 ベテランのパートさんの手際よさ。	ポストから底を打つ音日脚伸ぶ 何故か安堵の響きですね。	坂道を下る伴走落葉かな	犬と猫背中合わせに日向ぼこ 日向ぼこの微笑ましい光景。	炊き出しの列に並べぬ寒鴉	知らぬ者同士椅子寄せ焼鳥屋 座五の「焼鳥屋」の季語が効いています。誰しも経験している安くてうまい焼鳥屋の一齣が良く出ている。	独走しトライのラガー土を噛む	朝風呂に酒（ささ）を浮かべて女正月 年末年始フル回転の日々でしたので、女正月はのんびりと。豪快ですね、こんな風にお酒を飲んでみたい。主婦にとつてこれ以上、贅沢な気分はないですね。	麻雀の二抜けを待つや霜の夜 二抜け、懐かしい言葉です。霜の夜の季語には作者の気持ちも表れている。リアル。季語の幹旋が見事です。	もうすでに霜焼けの手の母は亡し	大晦日永遠に暖簾を下ろしけり 長年続いた暖簾も今年限り、淋しいですね。今年限りで区切りをつけた商い。静かに最後の暖簾を下ろす万感の思いが伝わる。円安、物価高、大晦日をもつて閉店せざるを得ない。寂しさを感じます。	淑気満つ午前零時の時計塔 一瞬静かに、そして、新しい年、時計塔はあらたかな空気に包まれますね。	日高道を
新井史子	清川徹斎	古賀由美子	檜鼻ことは	山中いちい	野田静香	岡本たか子	持永喜夫	小林京子	丸山マスマ	河野はるみ	渋谷きいち	寒立馬	立野音思	日高道を	

60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	水明インターネット句会（選句・選評） 令和五年一月
寒立馬	徹斎 みづる 水月 修 ひろし ほのる はるみ 風舎				珪子 はるみ	修 月を 京子	ほのる	かげろう 寒立馬	マスミ		山菜 凡土 のぞみ 喜夫 風舎 かげろう		道を	光雲2 允孝	
羊日や希望と不安たぐり寄せ その通りと同感した。さて今年希望の年となるかな。	戦ひを終へて寄り添ふ喧嘩独楽 世の中を願った時事句である。	寒の風アクリル板を飛ばしけり	突き立つや櫂の孤高初御空	春近し売場賑はふランドセル	冬尽くや花壇にぽつり花名札 花名札がひたすら芽吹きを待つている心がホントしました。寒さに耐え	春待つや齒科にピンクのユニホーム 名札だけがポツンと残って。優しい眼差しを感じました。寒さに耐え	父かとも遠ざかりゆく冬帽子 父を思う眼差しの動きが見える。	終列車の汽笛尾を引く雪催 中七でうまく情景を表現している。かつての故郷の情景が浮かび胸を打った。	大津絵の鬼も覗くや初弘法 初弘法は1月21日。弘法大師の命日でもある。京都東寺の境内では盛大な市が立つという。その賑やかさにひょうきんな大津絵の鬼も覗かずにはいられないのかも。俳諧味が良い。	盤上に若武者一手初山河	番台に「黙浴」とある初湯かな	黙とうのマスクしらじら神戸の灯	ガス灯に昭和の香り六花 「六つの花」の季語が効果的。	寒鰯の凝脂を洗ふ今朝の水 寒鰯の美味、腹部の銀白色を凝脂と表現したのでしょいか？素晴らしい詩的感覚だと思います。今朝獲れた寒鰯は美味ですね。冷たい水で洗われる光景が目には浮かびます。	
望月のぞみ	俳翁	秋谷風舎	光雲2	反町修	かげろう	新 曆文	みづる	森美枝子	河野凡士	池田珪子	荒一葉	ほのる	しんい	森下山菜	

75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	水明インターネット句会（選句・選評） 令和五年一月
			のぞみ		美枝子 道を いちい	光雲 <sup>2</sup> 允孝 喜夫 鶴城	六弦	マスミ			しんい 荒一葉		暦文		
公園に兵馬俑めく冬木立	メールで届く葬儀の日取り寒の入り	初嘘やアンケートに三十歳	漆盆少しへたれの雪うさぎ	初松籟我が俳句道迷ひなし	ガラス戸に幼の手形寒の朝	「凍蝶、哀し」一行のみの日記かな 寒鰯の美味、腹部の銀白色を凝脂と表現したのでしょいか？素晴らしい詩的感覚だと思えます。凍蝶を日記に記憶したその悲哀が良く出ています。長生きしすぎた人生、「凍蝶、哀し」では寂しすぎると思いますが心に沁みます。一行のみに作者の思いがしつかり伝わります。	空一字「そら」とも「くう」とも書き初める 読みの違いでこんなに違う。奥が深い句です。	一条の金波を待ちぬ初明り 太陽が水平線に顔を見せた途端、一条の黄金色の光の筋が走ってくる。なんとも神々しい光景。初日の出となれば格別。それを待つ純な気持ちに共感。	フェロモンの多き男の床暖房	免許証の「大字」の文字春を待つ	冬ぬくし代わる代わるに駅ピアノ 今流行っていますね、皆さん上手ですね。代わる代わる弾く駅のピアノの温みある音が聞こえる。	寒菊や後期高齢夢半ば	妻の小言ちよっぴり苦し露の臺 同感です。	帰り花づつと見つめていたい人	
河野はるみ	渋谷きいち	網野月を	立野音思	日高道を	本橋稀香	後記朝香	霜里	倉田詩子	吉川水月	石関六弦	龍野ひろし	染谷風子	後藤允孝	青木鶴城	

								82	81	80	79	78	77	76	水明インターネット句会（選句・選評） 令和五年一月
								ことは	かげろう	光雲2 風舎	暦文 きいち 六弦	美枝子 凡士	珪子 徹斎	しんい 凡士	
								庭下駄の鼻緒の緩み去年今年 鼻緒の緩み、足になじんだ愛用の下駄か草履、無事新年を迎えられそうですね。	大寒や輪郭鋭しなにもかも 寒さの表現の仕方が秀逸。	冬菫は春のすみれと違い心に翼隠しているのかもしれない「冬菫」を作者に例えた心情句か。飛び立つ春に備えた「翼」は、作者の前向きで、確固たる覚悟が伝わってくる。	福寿草町内小町でありし祖母 一度逢って見たかったですね。福寿草は目出度いだけでなく可愛らしく、こんなお婆ちゃんが欲しいです。福寿草で、お祖母様のお人柄がわかる素敵な句です。	年重ね何をせかせかせか仏の座 中七から下五への流が小気味よい。仏の座がよく効いている。	大寒に生まれたる子のまるまると 末は博士か大臣か。善ない成長を祈ります。大寒とまるまるとの対比が良かった。	これはもう闘いですと雪降ろし 雪国のご苦労がしのばれます。転落死、家崩壊、56豪雪時富山において体験した、そのとおり！	
								岡本たか子	山中いちい	野田静香	丸山マスマ	持永喜夫	小林京子	寒立馬	